

脳卒中を発症された 患者さん・ご家族の皆さんへ

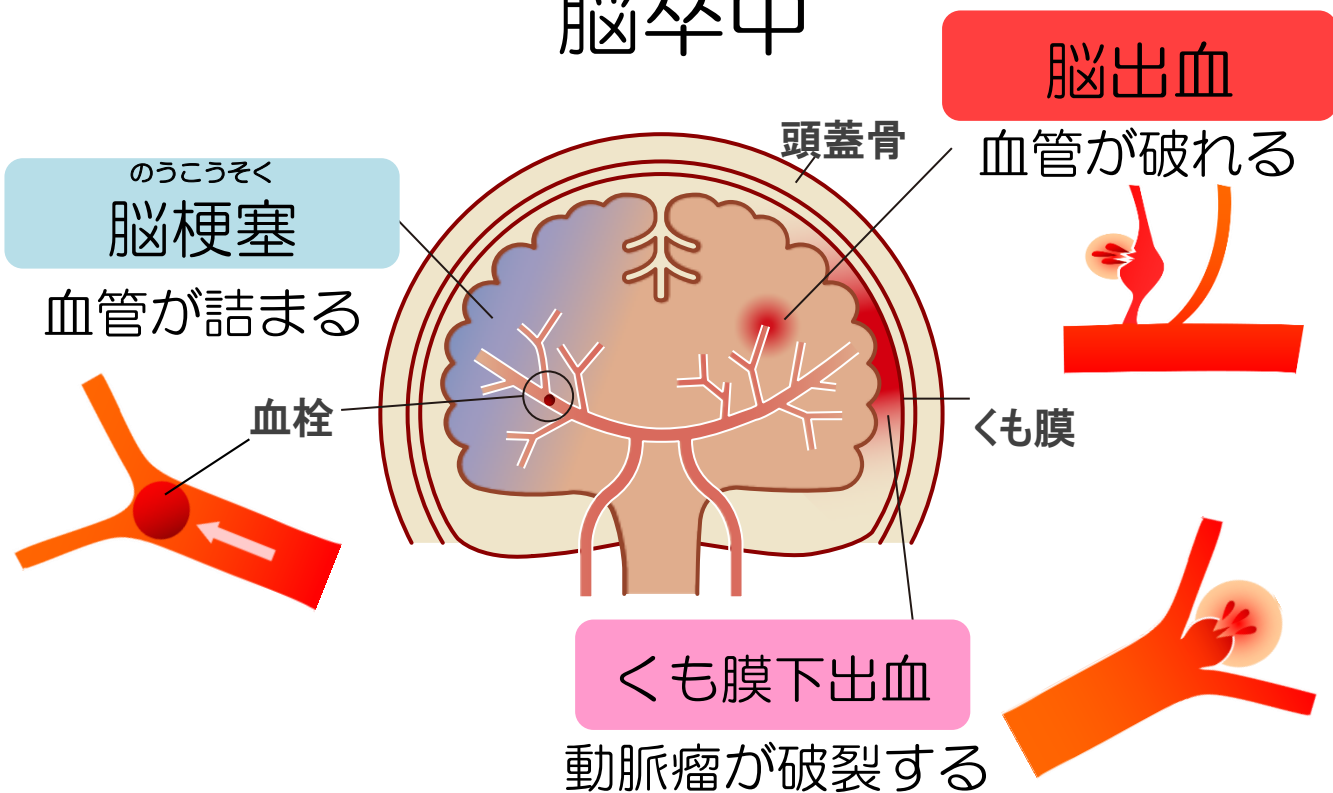


さん

脳卒中ってどんな病気？

脳卒中は、脳の血管が詰まったり、破れることで起こります

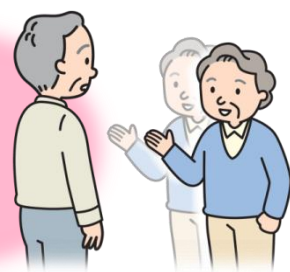
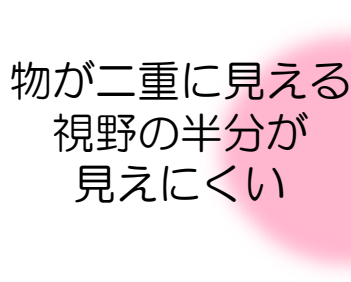
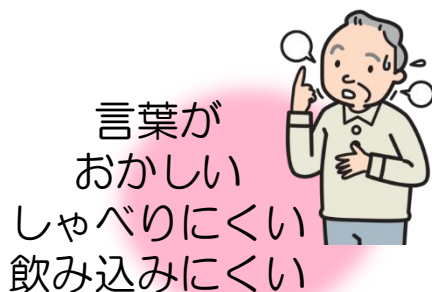
脳卒中



イラスト出典: ストップ！NO卒中「脳卒中撲滅を目指して(2017年度版)」

脳卒中の症状

症状は突然起こります

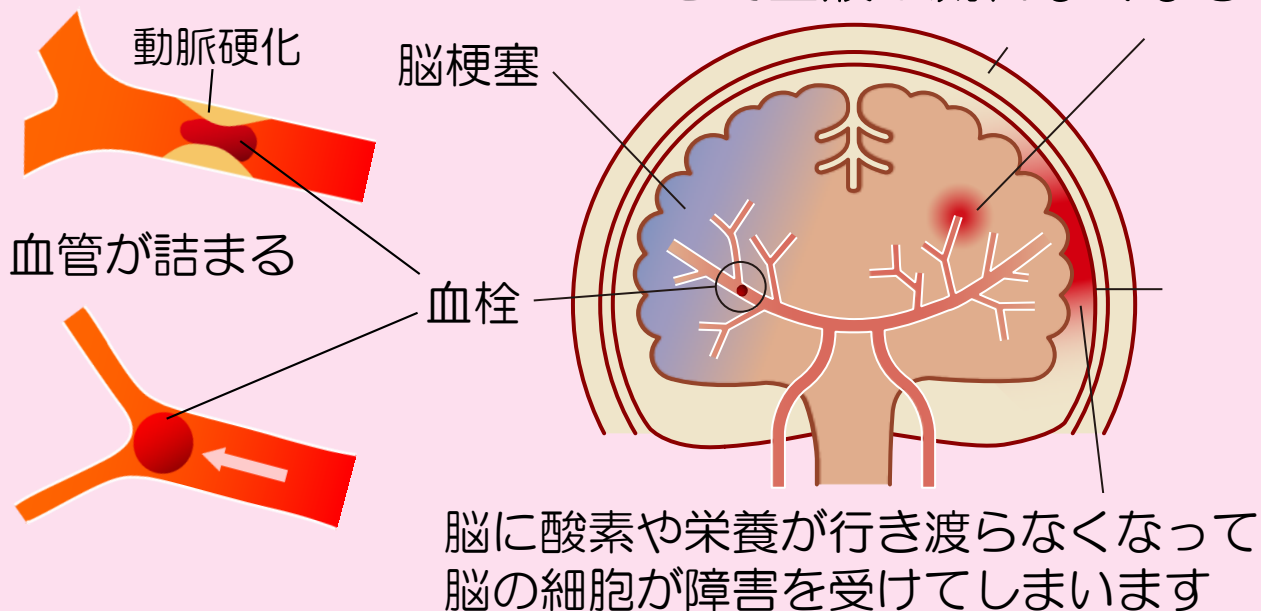


脳梗塞(のうこうそく)

脳の血管が細くなる（狭窄）

血管内に血のかたまりが飛んで詰まる（閉塞）

ことで血液が流れなくなる



イラスト出典: ストップ! NO卒中「脳卒中撲滅を目指して(2017年度版)」

治療

★進行を予防する治療

手術で狭くなった血管を広げたり、血のかたまりを取り除きます

カテーテルを用いて血のかたまりを溶かします

★再発を予防する治療

血のかたまりを溶かす薬や、血が固まる働きを抑える薬を内服または点滴注射します

★症状を改善する治療

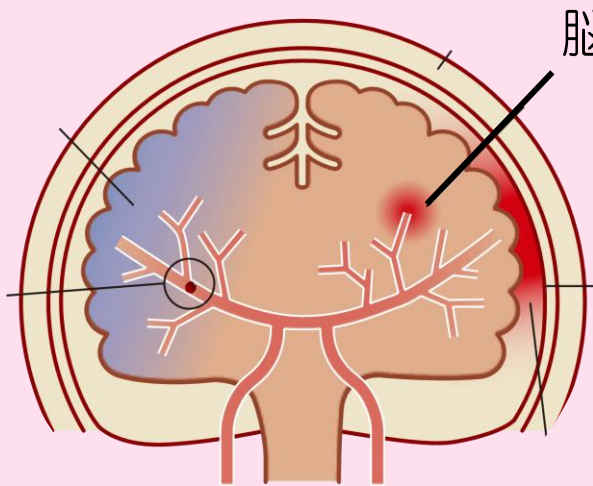
リハビリテーションをできるだけ早くから行います

麻痺やししゃべりにくさなどの症状の改善につながります

脳出血

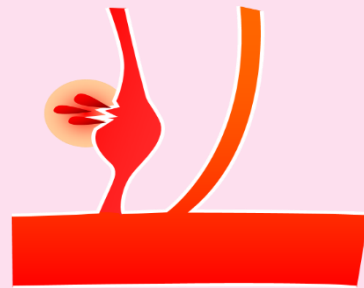
最も多い原因は高血圧

高血圧によって血圧が上がったときに
血管が破れて出血する



脳出血

血管が破れる



脳の血管の病気が
原因のこともあります

イラスト出典: ストップ! NO卒中「脳卒中撲滅を目指して(2017年度版)」

治療

★進行を予防する治療

脳の中に血が溜まり、周囲の正常な脳が壊されるのを
予防するため、頭を開いて血液を取り除きます
また出血を止める点滴をします

★再発を予防する治療

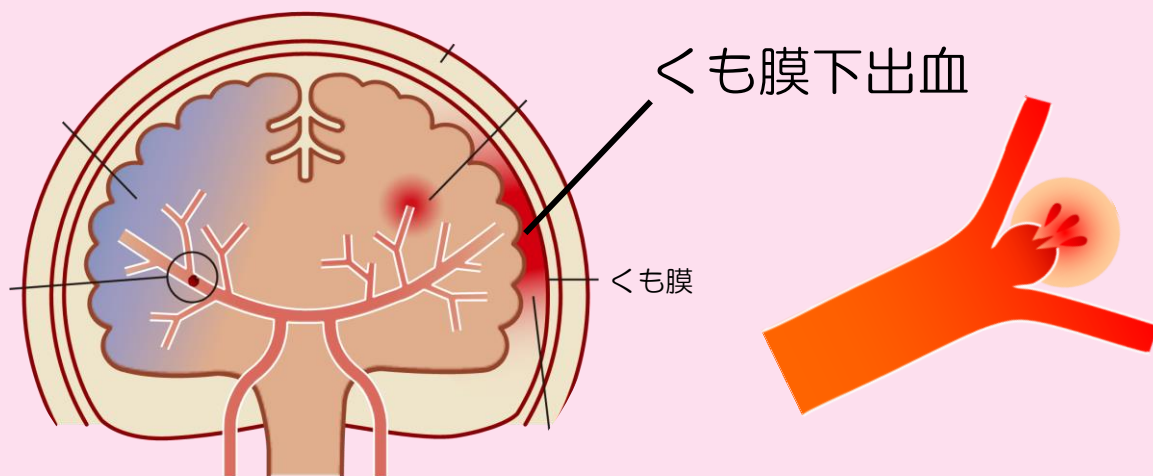
高血圧が原因の場合は、血圧を安定させる薬を使用します
脳の血管の病気が原因の場合は、手術をすることがあります

★症状を改善する治療

リハビリテーションをできるだけ早くから行います
麻痺やししゃべりにくさなどの症状の改善につながります

くも膜下出血

脳内の血管に「脳動脈瘤」というこぶができて、そのこぶが破裂し出血する



一度破れたこぶが再破裂すると命に関わる確率がきわめて高くなります

イラスト出典: ストップ! NO卒中「脳卒中撲滅を目指して(2017年度版)」

治療

★進行を予防する治療

血管にできたこぶをクリップで挟んだり、コイル（細い糸状の金属）を血管の中から詰めることで、こぶがさらに大きくなったり破れたりすることを防ぎます

★再発を予防する治療

まだ破れていないこぶが見つかった場合、破れる前に処置をします

★症状を改善する治療

リハビリテーションをできるだけ早くから行います
麻痺やししゃべりにくさなどの症状の改善につながります

入院からお家に帰るまで



救急センター(ER)

119番



脳卒中ケアユニット (SCU)
ハイケアユニット (HCU)
集中治療室(ICU)

全身管理を行いながら異常の
早期発見に努めます
この時期よりリハビリを開始
していきます

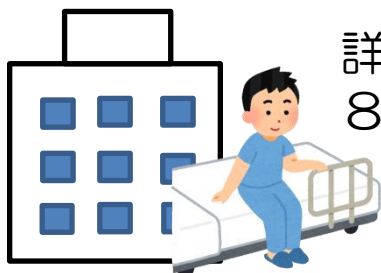


一般病床

病状に合わせて、日常生活動作の中での
リハビリを行っていきます
今後についても、色々な職種と協働して
一緒に考えていきます



回復期リハビリ病院



詳しくは
8ページ

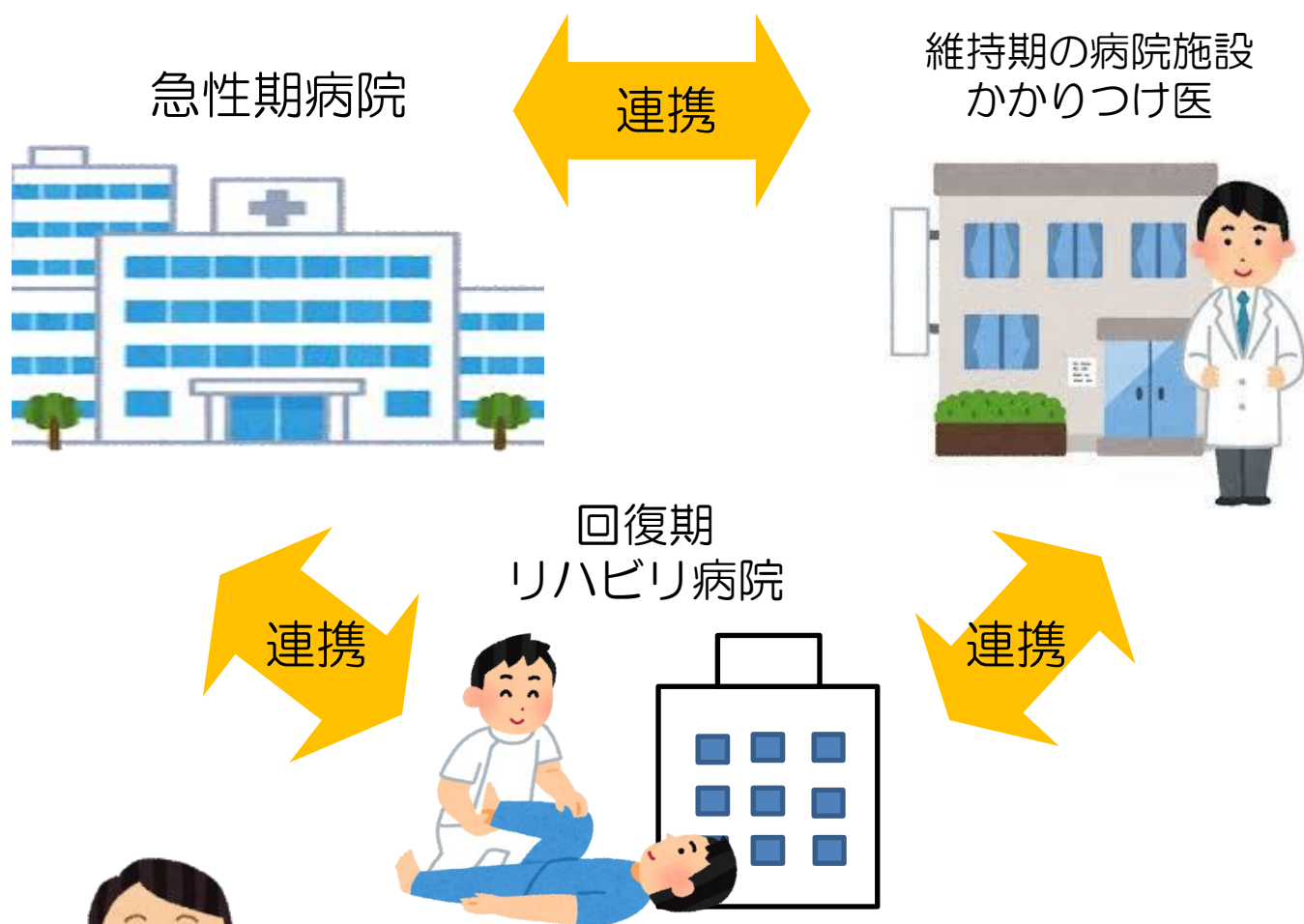
自宅・施設・療養型病院など



地域でのサポート

脳卒中地域連携

地域の中で切れ目のない脳卒中の医療連携の推進を行っています



メディカルソーシャルワーカー

必要に応じて担当のメディカルソーシャルワーカーが決まります
メディカルソーシャルワーカーは、本人や家族の意向を聞きながら
治療と並行して、転院や退院の相談・支援を行います
介護保険などの社会資源や入院費についての相談も可能です
相談を希望される場合は病棟のスタッフに声をかけてください

急性期病院

検査



診断



治療



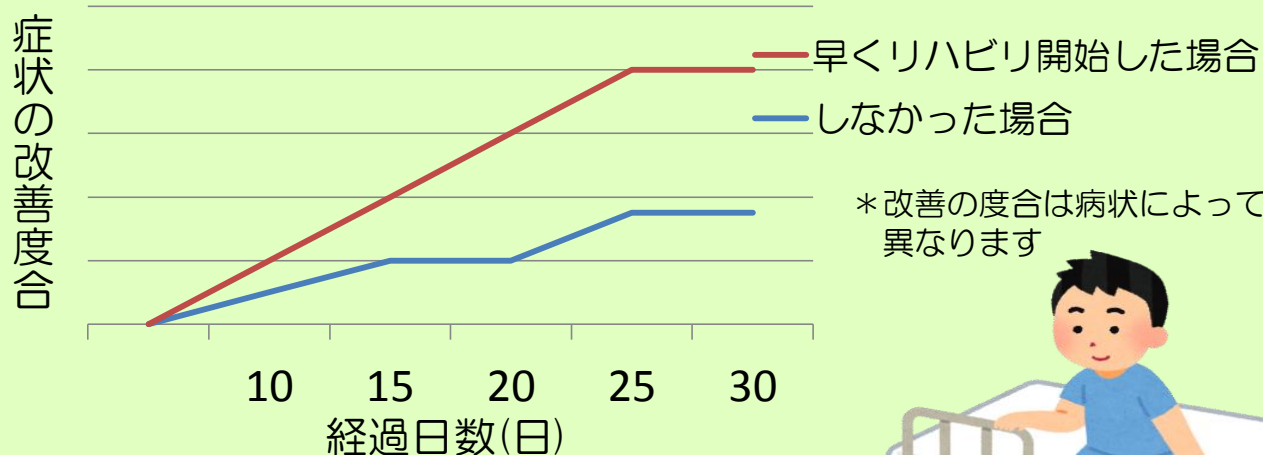
治療期間は1～3週間が目安です



急性期のリハビリ

脳の障がいされた部分は元には戻らないので、
後遺症として麻痺などの障がいが残ってしまいます

発症から1日も早くリハビリを開始することが
症状を改善する一番の治療といわれています



病状に合わせてできる限り
早くからリハビリを始めます
日常生活の動作も大切なリハビリとなっています



急性期病院では治療を主としているためリハビリが
できる時間は限られています（約20～80分程度）

メディカルソーシャルワーカーが医師や看護師と相談しながら
適切な時期に退院または転院できるように、治療と並行して
早期から支援をすすめていきます

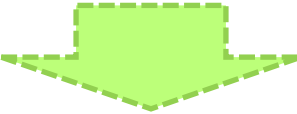
回復期リハビリ病院 (リハビリ専門病院・病棟)

脳卒中による障がいがあり、
リハビリを続ける適応がある場合は、
リハビリ専門病院に転院（または退院
して家から通院）します



リハビリ病院では在宅復帰に向けた専門的なリハビリ
を行う環境が整っており、1日に平均2～3時間、
個人の目標に合わせたリハビリを行うことができます
土日・祝日も休まずリハビリを受けることができます

*病状によってリハビリ病院の適応にならない場合もあります



自宅・維持期病院・施設

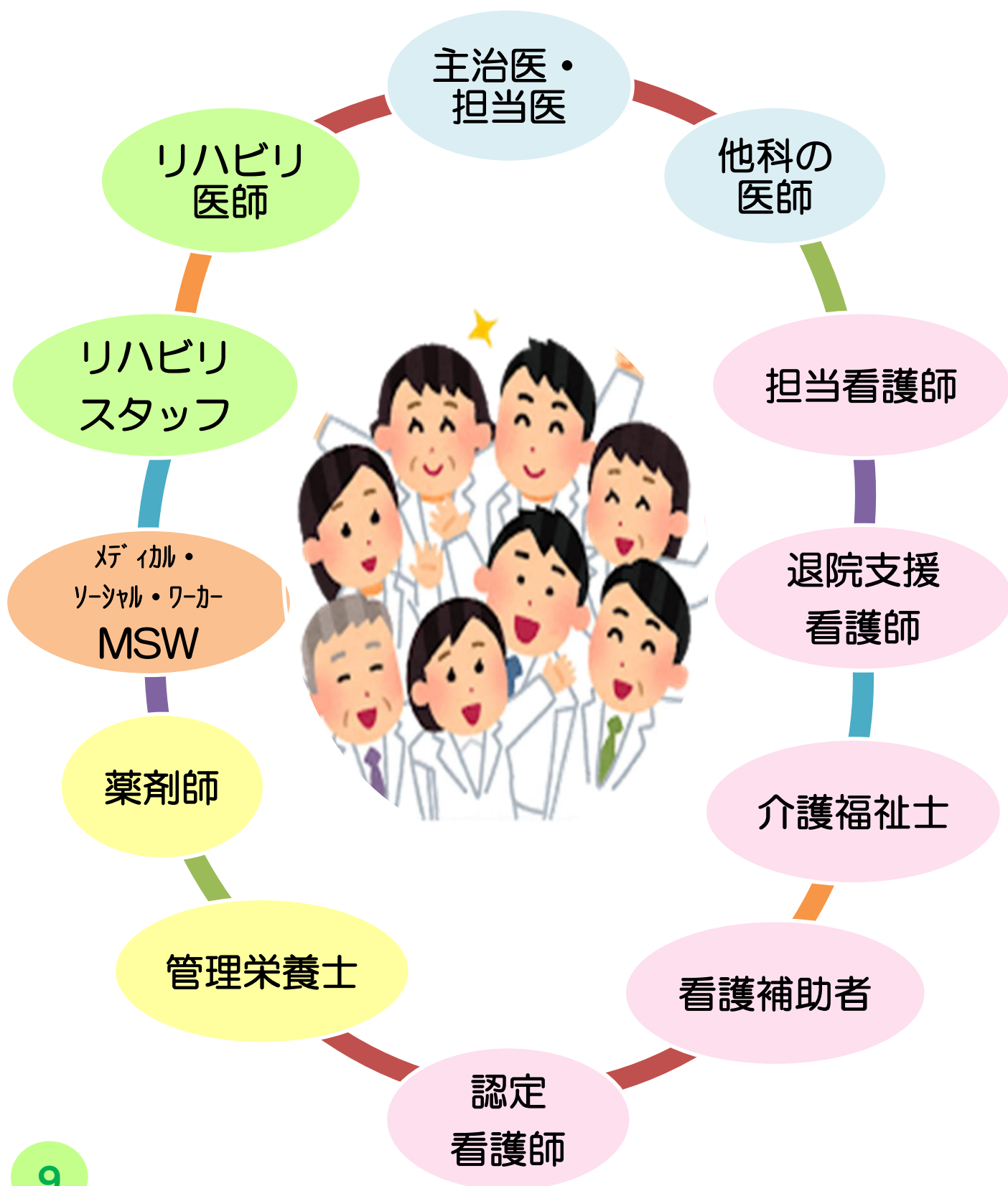
状態に合わせて自宅退院、または維持期病院への
転院、施設へ退院します

慣れない入院生活によって混乱がみられたり
認知症の症状が悪化する場合もあります

そのため状態が安定したら
出来るだけ早く入院前の
生活環境へ戻ることができる
ように努めます



様々な職種が チームでサポートします



入院直後から ご家族にもできるリハビリ

ベッドにずっと寝ていると、動く量が少ないため、筋力が弱って、関節が固くなっていきます。そのほかにも動かないことによって体に様々な悪影響が出てきます。

～簡単にできるリハビリの例～

手のリハビリ



手をひらくように
指を持って伸ばす



手を支えて
手首を曲げる

面会に来られた時に
このように手足を
動かしてください



足のリハビリ



足首を持って
ゆっくりと
足を曲げる

足首を支えて
膝を伸ばす



こんな効果があります

- ❖ 手足の筋力が弱るのを予防する
- ❖ 手首・足首・指の関節が固くなるのを予防する
- ❖ 足の血管に血のかたまりができるのを予防する
- ❖ 触れることで刺激になる

※病状によって動かしてはいけない場合もあります

わからないことがあれば、リハビリスタッフや看護師に声をかけてください